

日時：平成 21 年 11 月 6 日（金）15：00～17：45  
 会場：トステム（株） ショールーム東京地下 1 階 ゲストルーム  
 参加者数：47 名

今回は、環境モデル都市として選定された 6 団体の一つ、横浜市より地球温暖化防止対策事業本部 高橋氏をお招きしてご講演いただいた。併せてトステム（株）の『環境共生への取組み』についてご紹介いただいた。

## ■横浜市における『環境モデル都市』への取組み

横浜市では「環境モデル都市」の提案を行う前から、Co-Do30（コード 30）と呼ばれる「2025 年までに温室効果ガス排出量を 30%削減する脱温暖化行動」に関する計画を策定していた（平成 20 年 1 月）。これを元に、さらに多方面にわたる事業を加え、横浜市としての環境モデル都市の提案を行っている。

### □環境モデル都市について

横浜市では、環境モデル都市の推進にあたり、これまでに G30 と呼ばれるゴミ焼却量 30%削減という目標を掲げ、これに対して 40%削減を達成しており、こうした成功体験を活かして地域展開を行っていききたい、と述べられていた。

横浜市でも、様々なデータから気温の上昇傾向が進んでおり、これによる都市部での集中豪雨や水害等の被害なども起きており、こうした気温上昇に歯止めをかけることが急務と考えられている。

### □横浜市の環境モデル都市の提案の概要

横浜市の提案の特徴は、367 万の「市民力」により [CO<sub>2</sub> 大幅削減] と「脱温暖化な暮らしが魅力となるまちづくり」を同時に実現するモデルである。

また、先に述べた Co-Do30 推進の中核的プロジェクトとして位置づけられていることも横浜市における特徴といえる。

そして、この「魅力」というところがポイントで、これは「無理やムダ、我慢しないで実現可能なモデルを目指している」ことを示している。

「市民力」に関しては、G30 での成功体験をうまく活かしながら、先進的な脱温暖化政策づくりに取り組むことと

されており、例えば、象徴的な存在として市民に見せるために風況調査で 2 番目に条件がよい場所に設置された風力発電設備ハマウイングの場合、建設費 5 億のうち 3 億（350 人分）を市民出資の市民債で買ったが、これがたった 3 日で売れてしまう、という市民意識の高さがその裏づけとなっている。

今後、様々な取組みが推進されていくことになるが、全ての局、区が何らかの形で携わり、脱温暖化を内部目的化していく横浜市と市民がともに連携していく環境モデル都市の今後を見守っていききたいと思う。



## ■トステム（株）の環境共生への取組み

第 2 部では、今回の会場をご提供いただいたトステム（株）環境室係長 峯弘氏からご講演いただいた。

まず最初に、創業 60 周年を記念した「いのちの森づくり植樹祭」（2007 年 10 月）が紹介された。これは、トステム下妻工場の敷地内に植樹したもので、来年度以降は育樹祭が予定されており、地域住民にも参加していただきコミュニケーションを図っていくことが紹介された。

### □トステム（株）の環境共生に関する事業概要

トステムでは、Total Housing の発想で住まいづくりの提案を展開している。事業活動にともない、多くのエネルギー、資源、原材料、化学物質などが投入され、また多くの CO<sub>2</sub>、廃棄物、化学物質などが排出される。循環型社会を形成し、環境リスクを軽減させていくためには、資源の有効活用、環境負荷物質の排出量低減が不可欠であり、トステムでは INPUT / OUTPUT の両面から、事業活動がおよぼす環境負荷の低減に取り組んでいる。

トステムの環境理念は、『環境に配慮する住生活総合企業として、かけがえのない地球環境保護と、人類の住生活向上に寄与するために、積極的かつ継続的に行動します。』というものであり、『地球環境の保護』としては、事業活動全体での省エネやリサイクルの推進、『住生活の向上』としては、住宅の省エネや長寿命化、高機能化などが挙げられていた。



### □事業の省エネ・家庭の省エネ

トステムでは家庭部門の CO<sub>2</sub> 排出量削減の取組みとして、どれくらいの暖冷房費とランニングコスト及び CO<sub>2</sub> が削減できるかについてシミュレーションを行い、提案している。

ストック住宅に対する CO<sub>2</sub> 排出削減商材の普及活動も積極的に展開しており、今ある窓にプラスするだけで防音・断熱効果がある内窓「インプラス」もそのひとつである。今後は、こうしたストック住宅における省エネ向上製品について力を入れていきたい。それには、シミュレーションによる効果の訴求だけでなく、体感による快適性の訴求も大事であると考え、ショールームで実際にお客様に体感していただいている。

### □樹脂内窓体験コーナー

続いて 3 つのグループに分かれて体験コーナーへ。ここでは、外気温を -10℃まで設定できるシステムをもっており、今回は 0℃で体感した。インプラスがあると、室内気温は 25℃であり、その効果は歴然である。そのときの外側の窓（＝従来からある窓のガラス面は 13℃、枠（アルミ）は 10℃であった。また内側に加えたインプラスのガラス面は 20℃、枠は 22℃で、ほぼ室内温度と同じであった。また同時に防音効果について、窓のすぐ外を電車が走ることを想定した騒音を出し、室内でどう聞こえるかを体感したが、10dB の違いで室内では騒音がほとんど聞こえない、という状況を知ることができた。